



## 空き家活用 一歩前進



ノスタルジックストリート西鶴賀

今回もポストコロナ時代に向けて、住まいがどう変わっていくのかをさまざまな角度から考えます。

長野JCが企画

西鶴賀町で5月13~15日、「ノスタルジックストリート西鶴賀」が開かれました。長野青年会議所「まち創生委員会2022」の皆さんが「西鶴賀町から長野のまちを盛り上げよう!」と企画・主催し、県建築士会などが共催。盛況のうちに幕を閉じました。

主要な催しは「オープンテラス」「謎解きラリー」「レトロマルシェ」「鶴さんぽ」でした。オーブンテラス(写真①)は、西鶴賀通りの二区画をちょうどちゃんと籠でライトアップし、昭和歌謡が流れる中でお料理を味わいました。ティクアウト商品は、全て西鶴賀の飲食店が提供し、ワンコイン(500円)で販売(写真②)。1時間足らずで完売になりました。

謎解きラリーは、西鶴賀にまつわる謎を解きながら町内をお散歩しました。レトロマルシェ(写真③)には来場者が途

切れることがありました。沿道の空き家を活用したこのマルシェは、通りにマッチした古い建物の雰囲気が店の魅力になることを出店を検討している方々に知つてもらおうと見て歩きました。

「9件長屋」活動

の空き家リノベーションワークショップの活動として、20年から22年4月まで、学生やまちの方々と積み上げてきました。地域の遊休不

動産を活用することに求められている用途の拡大を解決できないか、と取り組んできました。3年間の活動の結果、6件の店舗の入居が決まり、構想が形になります。

(図①②)。

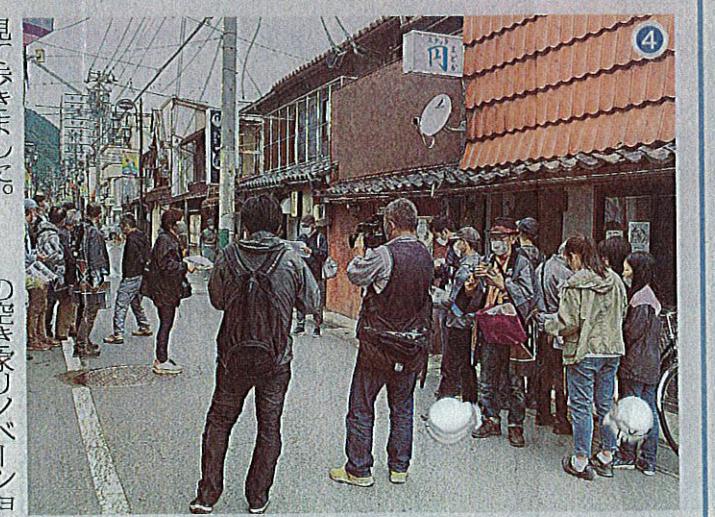
ノスタルジックストリート西鶴賀を多くの方々に楽しんでいただけたことで、積み上げてきた活動がまた一步前進しました。西鶴賀では今後も「遊休不動産リノベーション相談会」を定期的に開催する予定です。

(建築士会ながの支部副部長、設計工房クリエイション級建築士)



図1 「9件長屋」活動

2



刈り取った草を株間に敷き詰める「草マルチ」。サツマイモ、トウモロコシ、アーモン、カボチャなどが水やりをしなくても順調に育っている。土中微生物の存在を知らないと信じられるよう肥料が開発された當時、科学者さえも土中の微生物の存在を知らないのだ。

根が元素を吸収できること分かつてきた。

微生物の働きが悪いと栄養が分解されないと植物はたくさん吸収できない。大好きなご飯の塊があるのに栄養になったのか? 化成肥料が開発された当時、科学者さえも土中の微生物の存在を知らないのだ。

本無農薬菜園一は、有機肥料といわれる油か

も試みた市内の「柴買」や販売店オーナーの高級車の横に、柴本さんの中古オノボロ未修理車が並ぶ様子は、

修理車が並ぶ様子は、

失調になってしまふの例は多々見てきた。

肥料を有機物(有機質肥料)で施しても、無機物(化学肥料)で施しても、植物の根は無機イオンとなつた養分を吸収する。慣行農業でも有機農業でもその点では違ひがない。



須坂市の耕作放棄寸前の畠。高齢のオーナーに依頼されてネクタリンの袋掛けをしたが、近所のおじいさんが好意で除草剤をまいた。苦情を言つても始まらないが、来年は葉をまかれる前に草を抜こうと決意する

「化成肥料を使わず、肥料を有機物(有機質肥料)で施しても、無機物(化学肥料)で施しても、植物の根は無機イオンとなつた養分を吸収する。慣行農業でも有機農業でもその点では違ひがない」といふ。亡くなる数週間前、私が「あなたの烟、グリメ過ぎて栄養過多だよ。特にチソ過多は健康被害が

「俺は命懸けでやつてやらあ」と意地を張り通し、立派な野菜を作りたかった。柴本さん。その言葉通り

が忘れない。

柴本無農薬菜園の例にもれず、有機肥料を多用する有機農業者は、栄養過多の弊害や過剰ではあるが、有機肥料の罪も理解してほしい

と自戒する。「柴本(シバキン)さん、あなたの大意地を確かに受け取つたから、あえて有機農業の弊害を書くこととするよ」



西鶴賀9軒長屋 Before

西鶴賀9軒長屋 After 現在へ



デッキテラス計画(空き家活用)

空き家を解体してオープンテラスにすることで町の賑わい空間に活用する。